

パラグライダー

大会規則・競技規則

【大会本部】

- ・大会本部をT.O.に設置する。
- ・本部への緊急連絡はTEL090-3328-1907へ行う。

【大会役員の権限】

- ・大会中は大会役員の指示に従わなければならない。大会役員の指示に従わなかったり、競技に支障をきたす行為をした選手には警告を与え、大会失格とする場合がある。
- ・主催者への問い合わせ、クレーム等は、競技委員長に行う。

【公式掲示板】

- ・テイクオフに公式掲示板を設置し、タスクの発表等に使用する。

【事故及び損害賠償】

- ・大会中に万一事故や損害が生じた場合、本人の責任において速やかに対処し、大会本部に連絡すること。
- ・主催者および大会関係者に対して責任追及、損害賠償の請求を 行わないこと。

【選手の運搬・回収】

- ・テイクオフへの移動は主催者が行い、ランディング後の回収は原則として選手各自で行う。
- ・アウトランディング等やむを得ず回収を要請する場合は、その旨大会本部へ連絡する。

【大会成立】

- ・**競技者10名**以上のフライトが成立した時点で大会成立とする。

【競技の中止】

- ・競技中に気象条件の急変などにより、その競技を中止する場合がある。
- ・中止の場合、フライト中の選手は速やかに、かつ安全にランディングすること。

【成績発表】

- ・閉会式開始10分前までにフライト成績を発表する。
- ・成績発表後3分以内に異議申し立てが無ければ、その成績は成立する。
- ・計算ミスなどの明らかな運営側のミスの場合、成績は変更できる。

【 保護用具の使用 】

- ・参加選手は、安全なヘルメット、効果のあるレスキューパラシュート、ハーネスからのパイロット脱落防止装置を大会期間中装備しなければならない。

【 健康管理 】

- ・心身ともに良好でない場合はフライトしてはならない。
- ・フライトに支障をきたす薬物やアルコールを摂取してのフライトをしてはならない。

【 衝突回避 】

- ・参加選手は空中接触しないよう十分に他機警戒に努め、フライトしなければならない。
- ・空中接触をした選手は、グライダーに構造上の問題が発生した場合すぐに飛行を取りやめること。

【 雲中飛行 】

- ・雲中飛行は禁止とされ、競技役員、他の選手によって監視される
- ・雲中飛行とは、グライダーの一部又はパイロットが雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- ・多くの選手が雲中飛行をした場合、競技委員長は競技を中止する場合がある。

【 バラスト 】

- ・選手は、水のバラストを使用することができる。バラストの投棄は禁止する。

【 無線機の使用 】

- ・無線機の使用は禁止とする。（正し緊急時は除く）
- ・ランディングの風の情報などのやり取りを行った場合は双方に最大得点を科す

【 ゼッケン番号 】

- ・ゼッケン番号は分かり易いように選手のヘルメットにも貼られなければならない。

【 参加選手の責任 】

- ・参加選手全員はブリーフィングの内容、タスクボードの記載事項に関して、正しく理解しなければならない。

【 大会失格 】

- ・スポーツ精神に反する行為は、大会失格とするペナルティーは、当該ペナルティーが科せられた日の結果表に記載される。

【 抗議（プロテスト） 】

- ・抗議は、事件発生後30分以内に供託金10,000円を添え、書面で競技委員長に提出しなければならない。
- ・供託金は、抗議が認められた場合は返却され、認められなかった場合は没収される。

【 テイクオフの間隔 】

- ・パイロットはテイクオフディレクターの指示でテイクオフする

【 スタート方法 】

- ・フライト機材受付順でテイクオフする。

【 テイクオフペナルティー 】

- ・次の選手には、そのラウンドのフライト点数に代えて最大点のペナルティーを科せられる。
- ・テイクオフ進行係に前に出るように言われたときに、公表されている順番通りにテイクオフする準備が出来ていない選手。
- ・テイクオフ進行係の許可を得ずにテイクオフした選手。

【 リフライト 】

- ・リフライトは下記の場合のみに認められる。
- ・ランディングで他機と重なり審判の指示によりターゲットを狙えなかった場合や審判長が特別に認めた場合

【 他のパイロットとの間隔 】

- ・フライト中のパイロットはターゲットへの安全で障害のないランディングを確保するために異なる高度でお互いに間隔を保つこと。
- ・ターゲット上の低い高度での追い越しは禁止とし最大点のペナルティーの対象となる。これは危険なフライト行為とみなされる。

【 アウトランディング 】

- ・ターゲットエリアから外れてランディングしたパイロットは速やかに審判チームに報告しなければならない。

【 ペナルティー 】

- ・雲中飛行を行った選手には、そのラウンドに対し最大点を与える。

- ・危険行為と判断された選手には、そのラウンドに対し最大点を与える。

【 ランディングの成功 】

- ・ランディングの成功とは、次の2項を同時に満たす場合とする。
- ・測定フィールド内に最初に靴裏で接地すること。
- ・キャノピーが接地するよりも先に、選手の靴裏以外の体の一部あるいは装備が、測定フィールド内に接地しない場合。ここでの装備には、アクセル・フットバーまたは牽引索を除外する。ただし軽いハーネス等のタッチは1 m (100 点) を科す

【 ランディング地点 】

- ・ランディング地点とは、最初に接地した靴裏の1点とする。ただし、片足裏全面で最初に接地した場合は片足裏全面、両足裏全面同時接地の場合は両足裏全面、両足裏の部分が左右同時接地の場合は同時接地した両足裏の部分となり、足跡のターゲットから最も遠い場所をランディング地点とする。

【 得点 】

- ・ランディング地点から、ターゲットの中心円の端との距離を、センチメートル単位で測定し、その距離を1センチメートル=1点で換算し、それが得点となる。
(注：センチメートル未満は切り上げ整数とする)
- ランディング地点がターゲット中心円上であれば、得点は0点となる。
- ランディングの成功以外の得点は最大点となり、それは1000点である。

【 順位 】

- ・もっとも低い総合点を取得した選手が優勝者となる。
- ・大会での最終成績で同点があった場合、テイクオフ順の若い選手を上位とする。

【 審判チーム構成 】

本大会における審判チームは5人とする。